

# 国連防災世界会議 採択要旨

最終的に採択された

## “仙台防災枠組” と “仙台宣言”

### 仙台防災枠組

国連防災世界会議で採択された「仙台防災枠組」の要旨は次の通り。

#### 【七つの世界レベル目標】

- 一、2030年までに、災害による全世界の死亡率を大幅削減する。20〜30年の10万人当たりの平均死者数を、05〜15年より少なくとも減少することを目指す。
- 一、30年までに、災害による全世界の被災者数を大幅削減する。20〜30年の10万人当たりの平均被災者数を、05〜15年より少なくとも減少することを目指す。
- 一、30年までに、全世界の国内総生産（GDP）に占める災害による直接的な経済損失を減らす。
- 一、30年までに、医療や教育の施設を含む重要インフラを強靱（きょうじん）化し、災害による被害と基礎的サービスの停滞

### 仙台宣言

国連防災世界会議で採択された「仙台宣言」の要旨は次の通り。

▽2011年の東日本大震災から力強い復興を見せた仙台市で、国連防災世界会議が開かれた。世界各地で増大する災害の影響を認識した上で、人命や財産の損失を抑えるため、減災に向けた取り組みを強化することを宣言する。

▽2005〜15年の防災指針「兵庫行動枠組

3月20日になって漸く、新聞紙面で国連防災世界会議本体会議の結末を知ることができた。本体会議は最終日の昼に閉幕する予定であったが、主に先進諸国と途上国との間で仙台防災枠組の調整で紛糾すべき内容の調整で紛糾し、結局翌日未明にまるでその所為なのかどうか知らないが右の記事（河北新報2015.3.20.朝刊）を見る限りあまりピリッとしたものにはなっていないようである。

を大幅に減らす。

- 一、20年までに、国や地方レベルで防災戦略を持つ国を大幅に増やす。
  - 一、30年までに、枠組み履行に向けた途上国の取り組みを後押しするため、適切かつ持続可能な支援を通じた国際協力を大幅に増やす。
  - 一、30年までに、住民がマルチハザード（多様化する危機）早期警報システムを利用し、災害リスク情報と被害予測にアクセスできる機会を大幅に増やす。
- 【四つの優先行動】
- 一、災害リスクの理解。
  - 一、災害リスク管理のためのガバナンスと制度の強化。
  - 一、強靱化に向けた防災への投資。
  - 一、効果的な緊急対応に向けた準備の強化と、被災前より災害に強い社会をつくる復興。

み」は重要な役割を果たしたと評価する。兵庫枠組みに基づき進めた取り組みの評価や経験を踏まえ、15〜30年の指針「仙台防災枠組み」を採択。新たな枠組みを実践し、未来に向け一層努力することを強く誓う。

▽全ての関係者に行動を起こすよう訴える。新たな枠組みの実現は、われわれや次世代の利益のため、災害リスクから世界を守ろうとする私たちの不断の努力にかかっていることに目覚めるよう呼び掛ける。